

今年度もいよいよ後半です。学級の児童生徒の人間関係や、学級の生活の中に生まれる問題に対する自力解決の様子はいかがですか。校内での活動が多くなり、落ち着いて学習活動に取り組める時期です。改めて、児童生徒の理解に努め、後半の学級づくりへの見通しをもちたいものです。学力・体力を伸ばし、心を豊かにするための基盤は学級づくりです。



<小学校>

「これいいですね！」 ～他クラスから学ぶ教室環境づくり～

他クラスに足を踏み入れた時、教室環境に温かみを感じたことはありませんか？

そのような時は、そのクラスの担任教諭と教室環境づくりについて対話してみましょう。



◇「この掲示いいですね」

掲示された作品、写真等に思いが込められています。掲示物の色使いにも注目しましょう。

◇「この方法いいですね」

給食当番や清掃分担表にも、子どもたちが自主的に動くことができる工夫が詰まっています。

◇「このスペースいいですね」

子どもたちの動線を考えた物の配置、スペースの取り方にも注目です。

子どもたちにとって、教室は大切な環境のひとつです。他クラスの工夫に学びながら、居心地のよい教室を作っていきたいですね。

クラスで取り組む家庭学習の工夫

長い2学期の中盤のこの時期、家庭学習を見直し、後半につなげていくには以下のようなことが考えられます。



家庭学習のひと工夫

- ① 家庭学習の内容が他の児童の参考になるようなノートのコピーを教室に掲示する。
- ② 学級通信等で、家庭学習をする際参考となる具体的なモデルとして工夫したノートの使い方を示していく。
- ③ ①や②を参考に、工夫してきた家庭学習のノートが提出されたら、そのノートのコピーを教室に掲示する。
- ④ 学期末の懇談会の際に、改善されたノートを提示し、保護者に伝える)



<中学校>

生活ノートのコメントは 心のキャッチボール



生活ノートは、生徒のことを理解したり、生徒とコミュニケーションをとったり、生徒をとり巻く環境を知れたりできる大切なものです。返事のコメントには、十分な配慮と工夫をしましょう。

1 教師が生活ノートに真剣に向き合しましょう

先生が丁寧に読んでくれているのか、コメントから生徒は敏感に感じます。コメントが響いていかなければ、生徒も書かなくなります。先生がいつでも丁寧に読む姿勢が大切です。

2 生徒の気持ちを肯定的に受け止めましょう

書かれていることを「〇〇だったんだね」のように、受けとめたり、共感したりすることが大切です。その後、教師の思いを伝えましょう。

3 返事を書く時間がない場合は・・・

忙しくて、コメントが書けないときは、線を引くなど「先生が読んでくれている」と感じられるようにして、返したいものです。

やる気改善ウィークで 悩みと改善策を共有しよう！

テスト前なのに、やる気が出ない…。そんな悩みを抱えている生徒は少なくないはずです。

そこで、帰りの会の5分ずつを使った「やる気改善ウィーク」を紹介します。みんなで知恵を出し合って考える以下のような機会をとってみてはどうでしょう。

- 月) やる気が出ない時ってどんな時？
- 火) やる気が出ない時、どうしてる？
- 水) みんなの知恵をシェアしよう！
- 木) どうだった？やる気改善リハーサル
- 金) 見付けた！私のやる気改善策！

火曜日は「やる気が出ない時の改善策」を付箋に書き出し、水曜日にみんなで分類します。帰宅後に自分に合った改善策を試し、木曜日に中間報告をしましょう。作戦を変えたり再度試したりしながら自分に合った方法を考える一週間です。